

土着天敵タバコカスミカメの保護利用について

～露地ナスでの天敵保護利用の高度化に向けて～

露地ナスのミナミキイロアザミウマ対策として普及している天敵保護体系のバージョンアップを目指し、新たな土着天敵タバコカスミカメを利用するための基礎的知見を得ました。タバコカスミカメは、天敵温存植物となるゴマを植栽すると8月以降に増加します。また、本天敵に影響が小さい殺虫剤をいくつか選抜しました。

1. 背景と目的

本県の露地ナスでは、ミナミキイロアザミウマ（以下、アザミウマ）対策として、土着天敵ヒメハナカメムシ類の保護利用が普及しています。しかし、害虫カメムシ対策の殺虫剤散布によって8月以降にヒメハナカメムシ類が減少し、アザミウマ被害が増加することが問題となっていました。そこで、露地ナスにおける秋のアザミウマ対策としてのタバコカスミカメの利用の可能性を検討しました。

タバコカスミカメ（図1）は、アザミウマ類やコナジラミ類を食べる土着天敵です。本種は、野外に植えたゴマ等で8月以降に増加する天敵であり、西南暖地ではトマト、キュウリ、ナスのアザミウマ類やコナジラミ類対策として導入が始まっています。



図1 タバコカスミカメの成虫

2. 研究成果の概要

まず、センター内の露地ほ場にゴマを植栽したところ、8月からタバコカスミカメが増加しました（図2）。このことから、本県でも、ほ場に天敵温存植物としてゴマを植えることで、8月からタバコカスミカメを利用できると考えられます。8月にゴマを切除してナスの株元に置くことで、ナスにタバコカスミカメが移動することも確認しています。

次に、露地ナスで使用される主な殺虫剤について、タバコカスミカメへの影響の有無を調査

しました。供試した9剤のうち、7剤は本種に対する影響が小さい事が分かりました（図3）。これらの薬剤を、影響の有無や影響期間を考慮して使用することで、タバコカスミカメを保護しながら、ナスに発生するアザミウマや、様々な害虫を防除することが可能と考えられます。

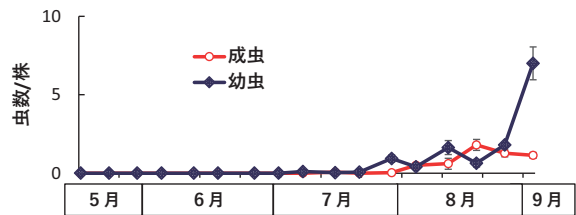


図2 ゴマでのタバコカスミカメの発生の推移

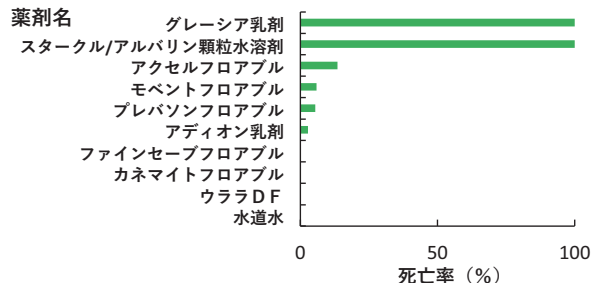


図3 タバコカスミカメに対する殺虫剤の影響

3. 実用化に向けた対応

これらの知見を踏まえて、今年度から現地の露地ナス生産ほ場での実証試験を開始しています。発生する害虫の種類や量に応じた時期ごとの防除薬剤の選択や天敵温存植物ゴマの植栽位置、ナスに天敵を移す時期を最適化し、ヒメハナカメムシ類とタバコカスミカメのリレー利用を主眼とした、新しい防除体系の提案を目指しています。

（環境科 井村 岳男）